

単元の導入で、子どもを揺さぶる

今回は、デジタル教科書に収録されている動画や写真、ワークを効果的に使って単元の導入で、子どもたちの学ぶ意欲や関心を高めるような活用のしかたをご紹介します。

1 主体的な学習を促す「揺さぶり」

教師自身が「今日の授業はよくできた」と思える授業とは、教師主導の流れに沿って児童が反応し、時間内に学習をまとめることができたものを指すことが多いのではないのでしょうか。学習内容が効率よく児童に伝えるという点では、これはよい授業といえるかもしれません。

ただ、グローバル化・情報化が進化したこれからの時代を生きる子どもたちの資質・能力を育てるためには、彼らが主体的に学習に取り組めるような授業のあり方が求められます。

つまり、子どもたちが自ら進んで考え、主体的に判断したり表現したりすることができ、「創造的な学びの場」としての授業です。

2 心を揺さぶる

そうした授業をかなえる要素の一つが「揺さぶり」にあると、私は考えます。授業において、子どもの認識や思考、心情を揺さぶる場面はさまざまあるかと思いますが、今回は、主に単元の導入でデジタル教科書を活用した「揺さぶり」の事例をご紹介します。

(1) 単元の指導目標

◎場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。

○登場人物の行動を中心に好きなどころを見つけながら読むことができる。

るのに適しています。空に現れた「くじらぐも」と二年二組の子どもたちとの心温まる交流を描いた本教材を大切に扱い、単元導入で、いかに子どもたちの想像を膨らませるか、工夫を重ねてこられた先生方も多いと思います。

かくいう私も、同学年の先生と協力し、何日かかけて、段ボールと大量の綿とで大きくくじらの雲を作ったり、雲がぼつかりと浮かぶ晴れの日を待ち、子どもたちと校庭に出て雲を観察したりしたことがあります。前者には手間と時間がかかってもかき、後者には、運を天に任せる覚悟が必要でした。

そこで、指導者用デジタル教科書(※)の「ワーク」(はじめに②)に収録されている写真と、挿絵を活用して、子どもたちを想像の世界の入り口へといざなう導入のしかたを考えてみました。

ワーク「はじめに②」には、三枚の写真が収められています。三枚とも使っても、選んで、自分で撮った写真と組み合わせさせて使ってもよいでしょう。「何に見えるかな」「この雲に乗って何をしたかな」と投げかけながら、電子黒板で拡大して見せると、子どもたちの想像は広がり、空や雲への興味は高まります。ある日の朝の会のスピーチでは、こんな



▲「くじらぐも」のワーク「はじめに②」

声が聞かれるようになりました。「昨日、アイスクリームの雲を見ました。雲に乗って、なめてみたいと思いました」「私は、大きなトラックみたいな雲を見つけました。それに乗って、遠くまで行つてみたいと思いました」。子どもたちの心が揺さぶられ、雲に乗って大空を進む、「くじらぐも」の世界へと入っていく準備ができたといえるでしょう。

(2) 単元の指導計画(全八時間)

▼第一時

学習の見通しをもつ。

▼第二時

教材文を読み、あらすじを捉える。

▼第三～六時

音読を楽しむ。

▼第七時

音読を発表し合う。

▼第八時

学習を振り返る。

(3) 活用のポイント

集団で学ばいちはんのよさである「人との関わり合い」を経験することができる、一年生のこの時期にふさわしい単元です。本教材は、物語の登場人物と自分を重ね合わせて、楽しい場面を想像す

第二時では、教師の範読を聞いた後、「いつ・誰が・何をしたか」を押さえて話の大体をつかむために、「挿絵カード」を使うことにしました。カードを操作して、物語の順に挿絵を並べ替えていきます。この挿絵カードは、印刷して配布することもできるので、個人で考える時間を取った後、電子黒板を使って、代表の子に、全員の前で並べ替えをさせました。子どもたちの視線は代表の子の指先に集中し、みんなが「ああ、私と同じだ」「次は、僕がやってみたい」と、発表への意欲を見せていました。

3 感覚を揺さぶる

「きょうみをもったところを中心に、しょうかいしよう」「ウナギのなぞを追って」(四年下)――

(1) 単元の指導目標

◎事実と考察の関係を押さえて読み、自分が興味をもったところ、感心したところを中心に文章を要約したり引用したりして紹介することができる。

○文章を読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違いに気づくことができる。

※デジタル教科書は、電子黒板等に拡大提示する「指導者用デジタル教科書」と、児童・生徒一人1台のタブレット端末で使える「学習者用デジタル教科書」とに大別される。

(2)単元の指導計画(全八時間)

ここで活用!

▼第一・二時

教材文を読み、学習の見通しをもつ。

▼第三～五時

内容を整理し、本文を二百字程度で要約する。

▼第六～八時

紹介文を書き、それを読み合って、友達と自分の考えの相違点と共通点を明確にして感想を伝え合う。

(3)活用のポイント

食べ物としてのウナギを知ってはいいても、そのウナギが、産卵のために遠くマリアナの海まで回遊するという事実を知る子は少ないでしょう。そして、その産卵場所を突き止めるための、研究者たちの長期にわたる努力について知る子は、もつと少ないはずです。だからこそ、本教材を通してそれを知ったときの驚きや感動は大きなものとなります。

しかし、もともと生き物に興味・関心の薄い子に、その驚きや感動を味わわせることは、時に難しくもあります。子どもたちの知的好奇心を刺激し、本教材への興味・関心を引き出したい——そう思い、単元導入で、子どもたちの興味・関

自分の考えをもつ。

ここで活用!

▼第三・四時

自分の考えをもちながら「時計の時間」と「心の時間」を読む。

▼第五～七時

筆者の主張に対する、自分の考えをまとめて発表し、考えが多様であることを確認したり、事例と考えの関わりについて確かめ合ったりする。

(3)活用のポイント

本教材は、平成二十七年版教科書で新しく掲載された新教材です。題名だけを見ると、「時計の時間」と「心の時間」が対比的に説明されているとも思えます。しかし、「中」での事例の挙げ方や「終わり」で述べられていることに着目すると、筆者が、両者を対比的に捉えているのではなく、相補的に捉えながら「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合う知恵が必要だ」と主張していることが分かります。文章を主体的に読みながら、子どもたちがそのことに気づき、筆者の考えに対して自分の考えをもつことができるような授業の展開を考えたいものです。



▲「ウナギのなぞを追って」のワーク「はじめに」

心を引く工夫をしてみました。

「ワーク」に収録されているワーク「はじめに」の写真「広い海の様子」と「ウナギのたまご」。それから、ウナギの卵とほぼ同じ大きさ、一・五ミリメートルほどのビーズを使います。このビーズを手にとって観察したり、卵の大きさである一・六ミリメートルをものさしで測ったりしたうえで、写真から海の大きさをイメージさせます。そして、「この大海原で、一・六ミリメートルの卵を見つけないのに、どのくらいの時間がかったか

ここでは、単元の導入として考えられる工夫を、私の実践の紹介ではなく、アイデアとして提案したいと思います。今回も「ワーク」(はじめに①)「はじめに②」を活用します。ワーク「はじめに①」は、自分の体験を踏まえて、時間の流れの感じ方について話し合ったり考えたりするための材料となります。そして、ワーク「はじめに②」は、映像を使ったワークです。実際には同じ長さ

ではあるけれど、違う長さに見える二つの映像を見比べ、その長さの感じ方につ



▲「時計の時間と心の時間」のワーク「はじめに②」

ろう」という予想を立てさせました。

当初は、それほど大仕事とは捉えていなかった子どもたちだったので、海や卵の大きさを想像することを通して、この調査の難しさに思い至りました。「この海の中からこれほど小さな卵をどうやって見つけるのだろうか」「途中でやめようとは思わなかったのだろうか」と問いをもって説明文を読むことにつながったように思います。

4 認識を揺るがせる

―筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう「時計の時間と心の時間」(六年)―

(1)単元の指導目標

- ◎筆者の主張と事例を利用して、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 事実と感想・意見などの関係を押さえ、筆者の意図を捉えながら自分の考えを明確にして読むことができる。

(2)単元の指導計画(全七時間)

▼第一・二時

学習計画を立てて、事実と意見を整理しながら「笑うから楽しい」を読み、

いて話し合うことで、「時間」に着目したり、実際の長さは同じであるという意外性によって、読みの課題をもつたりすることができそうです。このことは、子どもたちの主体的な学習につながっていくはずです。

5 実践から分かること

今回は、単元の導入において子どもたちを「揺さぶり」、彼らが「読んでみたい」「疑問を解決してみたい」と思えるようなデジタル教科書活用の実践やアイデアをご紹介します。単元の導入を少し工夫することで、その後の子どもたちの学習意欲や主体性、課題意識は大きく変わってきます。ぜひ、試してみてください。

また、今回ご紹介したデジタル教科書の資料は、ほんの一部にすぎません。さまざまな収録されている動画や写真、ワークをどう生かすかは、先生方のアイデアにかかっています。まずは、デジタル教科書をいろいろと操作してみて、自分の活用のしかたを考えてみるというかもしれません。